

南スーダン 治安悪化の一途

陸自部隊「駆けつけ警護」運用開始

南スーダンで国連平和維持活動(PKO)に従事する陸上自衛隊部隊は12日、安全保障関連法に基づく「駆けつけ警護」など新任務の実施が可能になった。ただ現地を視察した稲田朋美防衛相の報告書が国会に「黒塗り」で示されるなど、新任務の実施状況をめぐる情報開示のあり方は揺れる。現地では治安悪化が止まらず、国連は「民族間の緊張と暴力が前例のないレベルだ」と警告。食料危機も進んでいる。

実施状況の開示 仕組み定まらず

新任務は、現地の国連司令部の要請などを受け、離れた場所でも武装勢力に襲われた国連職員らを助けに行き駆けつけ警護と、宿営地が襲われた場合に他国軍と共に防衛する「共同防衛」。派遣部隊は陸自第9師団(青森市)を中心とした約350人で、活動期間は約半年間だ。

菅義偉官房長官は12日の記者会見で「問題なく業務を遂行してくれる」と語った。ただ、「業務遂行」に向けた政府の情報開示の仕組みづくりは見送っているのが実情だ。

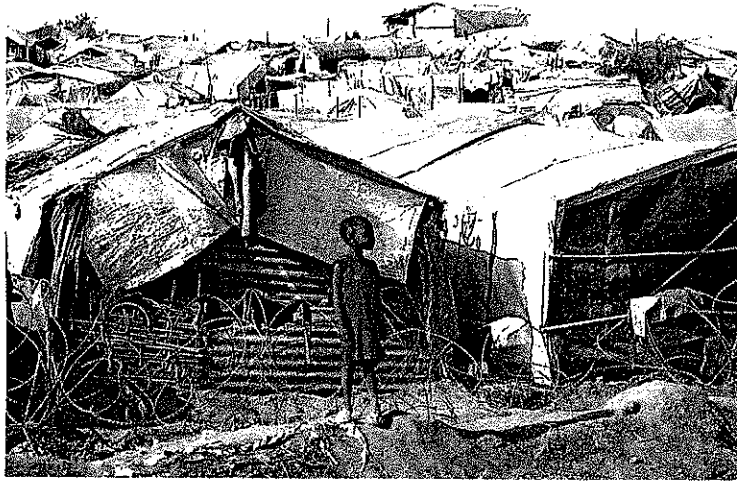
派遣部隊に新任務を付与する直前の11月にあった衆院安全保障委員会では、野党議員が要求した稲田氏の現地視察報告書のうち、ジュバ市内の情勢部分を黒塗りで公表。前回派遣部隊の家族向け資料のうち、「政

府派・反政府派の支配地域」と題されたページも、のちに開示されたものの当初は非開示とされた。

新任務を実施した際の公表については、政府内では「隠したと思われるのは良くない」との意見がある一方、「開示は政治判断だ」との消極論も根強い。稲田氏は12日、視察先の北海道で記者団に「できるだけ情報というものは結果として報告はするつもりでいる」とだけ語った。(相原亮、榎井俊介)

地方でも衝突、農業できず

砂嵐が吹き荒れる市街地を、南スーダン政府軍兵士を乗せたトラックや国連の装甲車がひっきりなしに行き交う。西部の主要都市ワウ。6月に戦闘があり、40人以上が死した。地元メディアは、最大民族ディンカ



① 米糞状態を調べるため、子どもの上唇周囲を測る②ワウの国内避難民保護区の風景。砂嵐が吹き荒れ、粗末なテントが砂に覆われている③いすれも一日、三浦英之撮影



と少数民族が衝突したと伝えた。衝突後にできた国内避難民保護区では、約4万人がテントで暮らす。「私が男なら報復したい」。少数民族のハフ・フランシスさん(29)は泣き叫んだ。夫がディンカの政府軍兵士に足を撃たれ、軍施設に監禁された末に餓死したという。ジュマ・アシャナさん(20)の自宅もディンカの政府軍兵士に襲われ、兄が射殺された。「同じ南スーダン人なのになぜ殺すとするのか。理解できない」

国連児童基金(ユニセフ)などが運営する保健施設では、子どもたちの栄養状態を心配する母親が並んでいた。看護師が子どもの上腕にバンドを巻いて測定。10秒しかない子どもは「重度の急性栄養不良」と判定され、治療施設へ運ばれた。

ピーター・アテム看護師(42)によると、重度253人中、中度1023人の急性栄養不良児がいる。「どんどん増えている。回復させないと、取り返しのつかない事態になる」。1歳の娘を連れてきた母親(27)は「3日間、何も食べていない」と嘆いた。

南スーダンのほぼ全土で食料危機

が進んでいる。国連世界食糧計画(WFP)によると、人口の約3割にあたる推定約360万人が深刻な食料不足の状態だ。前例のない事態だ。ユニセフによると、推定約36万人の5歳未満の子どものが、重度の急性栄養不良になっている。

7月に首都ジュバであった政府軍と反政府勢力の大規模な戦闘が全土に飛び火し、9・12月の収穫時期に農作業ができなかったことが原因とみられる。

自衛隊が宿営するジュバ中心部の治安は比較的安定している。だが、ジュバ郊外では強奪などが相次ぎ、危険な状態が続く。

南部でも状況は悪化。国際人権団体の11月末の報告によると、主要都市イェイでは政府軍兵士による殺人やレイプ、反政府勢力による拉致などが多発。数十万人が逃げ出した。国連人権理事会の調査団は今年1日、「集団レイプや村の焼きうちといった民族浄化が進行している。ルワンダで起きたこと(大虐殺)が繰り返されようとしている」と警告した。(ワウ＝三浦英之)

多数の武装組織 戦闘員10万人

多民族国家の南スーダンには、各民族を基盤とした少なくとも10以上の反政府系の武装組織が存在し、計10万人以上の戦闘員がいるとみられる。

最大勢力は、マシャル前副大統領率いる「スーダン人民解放軍・反体制派(SPLA-IO)」。キール大統領の出身民族ディンカに次ぐ規模を持つヌエル民族で構成される。国内北部に主力がいる一方、南東部にも関連組織を持つ。東部にはヌエルの別組織「ホワイトアーム」がいる。

これらの多くは、2011年のスーダンから22年続いた内戦で、家畜や財産を他民族から守ったり、利権・主導権を争ったりするために武装を進めた。独立後も独裁的な現政権に反発。民族間での虐殺も起きており、敵意を増幅し合っている。(中野寛)

